

Vol.9

発行元：NPO法人22世紀
八幡ルネサンス協会
八幡市八幡高畑 10-76
TEL・FAX 075-981-6505
発行：年4回

◆ 目次 ◆

【男山 特集】	
特別講演に寄せて	… 1
男山の自然と昆虫	… 2
歴史と文学に息づく男山	… 3
八幡に生きる	… 4
太陽光発電を考える	… 5
介護の今	… 6
宗教と社会	… 7
創作彫刻	… 8
八幡の芸能	… 9
八幡 俳句歳時記	… 10
男山地域再生の取り組み	… 11
編集後記	… 12

男山 特集

今回は、「男山」をテーマに特集を組みました。男山に太陽光発電の建設工事を持ち上がり、景観破壊や自然災害を危惧する住民や市民によって反対運動が展開されています。そこで、男山が歴史や文化、自然の観点から、如何に存在しているのかを考えてみたいと思います。



特別講演

「石清水八幡宮の歴史と男山」
(石清水八幡宮、西瀬宜)に寄せて

男山の太陽光発電建設
反対実行委員より

8月31日開催された「第3回男山太陽光発電建設反対住民集会」の特別講演として、石清水八幡宮の西中道瀬宜に表題のお

話をしていただきました。この企画は、「鎮守の森」として親しまれている男山と石清水八幡宮について、その歴史的価値や自然環境の重要性について再認識したいとの思いで実施されたものです。

西瀬宜は、自然への畏敬、共生と循環、生態系維持の大切さを話の中核とし、現代社会における環境破壊への危機感を持つとともに、海外でのトラスト運動をも例に出しながら土地所有の課題解決への思いも語られました。講演の概要と感想をレポートいたします。

◆ 神話の歴史から

日本には、八百万の神が、太陽・山・森・川・海などあらゆる自然の中に存在し、その考え方は自然全体の共生と循環の中で人が生かされているとして、自然への謙虚さが大切な精神とされています。そして、神事は、この環境から生まれた生産物を公平に分配する基本的な仕組みとして機能し、豊かな恵みに感謝する行為として現在に継続されています。

男山の地主の神様は、石清水

八幡宮ではありません。八幡宮が創建されるかなり以前から狩尾神社が男山の南西付近に存在しており、先祖がタタリを恐れ、その境界線を作り、毎年、人と自然との豊かな関係を契約する場として機能しているのです。

また、行基が創建した石清水寺の伝承も残り、周辺の山には和気清麻呂に関わる寺もあり、鎮守の森男山には、悠久の歴史が刻まれ、文化的景観として日本でも類を見ない極めて貴重な環境を保持しているのです。

◆ 男山の地理環境と名水

この地は、地政学的に、京の裏鬼門(南西)に当たり、三国(山城・摂津・河内)、三川(木津川・宇治川・桂川)、三都(平安京・平城京・難波京)の結節点として重視されてきました。貞観元年(859)、行教が宇佐八幡宮で「託宣」を得て創建され、また、国宝指定される本殿は徳川家光の時代に建てられたものです。

当初から男山には清い水が湧き出ており、冬に凍らない霊泉の湧き出る神社として石清水八幡宮としました。また、男山中

腹の(摂社)石清水社には、石清水八幡宮のもととなった清水井があり、現在も聖水が湧き出ています。

ここからは、筆者のコメントです。ちなみに、京の名水一覧の中に市内各所の名水があり、京都盆地の地下には約211億トン(琵琶湖に匹敵する豊富な水量の水瓶(京都水盆)があると言われており、この水脈は、伏見の酒造業界・豆腐業界・菓子業界・茶道等の井戸として今も現役で支え活躍しています。京都の文化・産業を下支えしている自然の偉大な資産である水脈がここ男山地域まで伸びており、石清水八幡宮にも現役の井戸が名水として存在しているのです。

◆ 男山からの献上品

石清水八幡宮では、毎年宮内庁への献上品が男山の自然環境で生育しています。

一つは筍の種類の「マダケ」。開花が120年周期という説があるもので、エジソンが使ったフィラメントもこのマダケと言われています。

二つ目は「ヤマアイ」。摺りへ

✓ 染め用の染料として用いられ、源氏物語や・万葉集にも名が出ており、皇室が神事に用いる小忌衣（おぎぎぬ）の染料も本種が献上され、今年の秋の大嘗祭（たいじやうさい）で供されます。

◆ 男山の景観を次代へ

― 感想にかえて

男山は平安時代のはるか以前より、周辺住民との歴史があり、神社・仏閣の歴史が存在し、それらを下支えしてきた男山の数々の大自然の資源（樹木・植物・昆虫そして地下水等）は今も脈脈と現在に受け繋がれてきています。

いま、世界の環境悪化は留まるところもならず、自然環境が破壊され、生態循環機能も危機的状況にあります。男山も最後の一角にまで佇まいが縮小されて現在に至っています。

今回さらに約7haの太陽光発電機が設置される山になろうとしています。そんな時、西瀬宜の講演は、共生と循環を大切にする価値観が提示され、今の時代にあつてこそその大きな示唆に富んだ内容と思えました。この価値観を維持してきた男山の自然と文化は大切な市民の財産として守り続けたいものです。

八幡市や京都府は、歴史的・文化的景観として、現存している貴重な

自然の資産を含め、男山の景観維持に務める責務があります。未来への子供たちに繋ぎとめるためにも、信仰があるなしに拘らず、今回の乱開発を許してはならない。それは一市民としての当然の権利であり、義務ともいえます。（N・H）

特集2

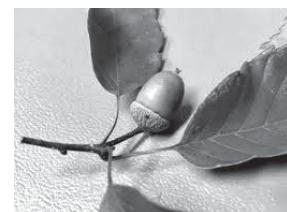
男山の自然と昆虫

佐藤 長作

八幡市発行の生物多様性調査報告書『八幡のまちの小さな仲間たち2016』によると、八幡には、植物728種、哺乳類14種、鳥類122種、両生類・爬虫類16種、昆虫類2375種の生息が確認されました。

昆虫類は群を抜いて多数です。さらに昆虫は男山で1502種を記録しました。男山には、65%もの種類の昆虫が生息していることになりました。男山は、日本昆虫学会により「昆虫類の多様性保護のための重要地域」に指定されています。この多様性の豊かさは男山が「鎮守の森」、聖域として森林が守られ続けてきたことにあるといえます。いかに男山の自然の役割が大切なか、理解できると思います。さらに、京都府RDB（レッドデータブック）で絶滅危惧種に選

定されたクロホソキコメツキが確認されています。それは京都府で2例しか確認されていない一つなので



す。右のことからも、男山は京都府南部では貴重な自然環境といえます。また、石清水八幡宮の領域にはシイ・カシの照葉樹林が残り、奈良の春日山の原生林と同様の植生のようです。

今回、太陽光発電設備建設を企てる業者が切り開いた土地にはコナラなどの樹木が存在していたはずですが、8月から9月にかけてドングリに卵を産み付け、地面に葉のついたドングリの枝を切り落とす昆虫がいます。「ハイロチョッキリ」です。長く伸びた物の先の大顎でドングリの実に穴をあけ、実の中に卵を産み付けます。この時期はドングリの実はまだ柔らかい状態です。それから大顎をペンチの様にして枝を切断します。ハイロチョッキリを人間の大きさに見



立てると直径3センチほどの丸太を切るほどです。切り落とされた枝は地面に落とされ、卵は幼虫になり、

ドングリから這い出して、地面に潜りサナギになります。そして成虫へと続くのです。そのサイクルを繰り返し、種を維持していきます。

2017年9月9日、滋賀の観音正寺へ行く途中でこのドングリの小枝を見つけたのですが、切り口が綺麗だなと感じつつ実態がわかりませんでした。いろいろ検索しながらこの昆虫に行き当たりました。

私は、男山の豊かな自然周辺で生活しています。しかし、林の中で生物がどの様に生息しているのか、具体例などほとんど知りませんでした。私たちの生活には直接関係ないかもしれない。しかし、少しずつ生態系が変化して行く中で自然環境はどうなっていくのか？ 男山に限らず、地震、火山噴火、台風、原発事故が起これば自然は崩壊の道を辿るのではないのか？ 強い危惧の念に駆られます。

西中道瀬宜は、特別講演で、「自然全体の共生と循環の中で人が生かされている、謙虚さが大切な精神」と話されていました。私たち人間は、自然の前に真摯でなければなりません。それは自然を崇める精神なのではないでしょうか。そう感じました。



歴史と文学に

息づく男山

土井 三郎

歴史や文学に「男山」がどのように登場するのか、スケッチ風に紹介してみます。

「牡山烽火」

『日本書紀』、『続日本紀』に続く勅撰国史書の三番目にあたる『日本後紀』の延暦十五年(796)九月一日条に「遷都以来。于今三年。牡山烽火。無所相當。非常之備。云々」の記述がみられます。

平安遷都以来三年、東北の蝦夷征討に力を注ぐ桓武天皇が、山城・河内国に接する男(牡)山に非常事態に備えて烽燧(烽火台)を置いたということです。国境にあつて、都を防衛する必要からの措置であることが読み取れます。

『古今和歌集』と男山

十世紀初頭に成立した「古今和歌集」には、男山を詠んだ次の和歌が知られます(よみ人知らず)。

今、そあれ我も昔は男山

さかゆく時もありこしものと

ここに言う「男山」は、年老いた

男が若かりし頃の自身を懐かしむ比喻の意で用いられているのですが、その後、八幡の男山を指すように言われ始めるのです。(「きずな」4号参照)

『土佐日記』と男山

「土佐日記」は、土佐国に赴任した貫之が、任地から帰京する紀行文ですが、承平五年(935)二月十一日の記述に「あめいさゝかにふりて、やみぬ。かくてさしのぼるに、ひんがしのかたに、やまのよこほれるをみて、ひとにとへば、「やはたのみや」といふ。」とあります。

土佐を離れ、和泉灘を経て難波の川尻から淀川をさかのぼり、ようやくにして京に近い男山に達するのです。尤も「男山」の名称は出ず、船から見て東に横たわる山に八幡宮が鎮座していると知らされ「ひとぐくをがみたてまつる」のです。

男山合戦

南北朝時代(14世紀中・末期)に、八幡を戦場に南朝(吉野軍)と北朝(足利幕府軍)が合戦を繰り広げました。南朝の年号を使用して「正平の役」(1352年3月～5月)と称せられる

もので、八幡市内には数多の石碑が残されています。

後村上天皇を擁する南朝軍は、幕府軍に追い詰められ、男山に陣を移し、やがて吉野に向けて落ち延びてゆくのですが、四条隆資の戦死など周知の通りです。

雄徳山松

長い戦乱の世を経て、元禄期(1688～1704)に「八幡八景」が生まれます。男山(雄徳山)を中心に、猪鼻坂、極楽寺、放生川、安居橋、月弓岡、橋本、大乗院の八景が漢詩・和歌・発句に詠まれるのですが、お雄とこ徳山は松を伴って詠まれます。

おさまれる世にぞ

やすらぐ雄徳山

さかゆく松の花の光は

孝明天皇の男山行幸

古代・中世を通じて石清水への天皇行幸は数知れずありますが、近世においては僅かに一度だけです。それが文久三年(1863)の孝明天皇の行幸です。

急進派公卿と長州藩を中心とする尊攘派志士が攘夷親征を画策し、幕府に攘夷の実行を迫るというもので

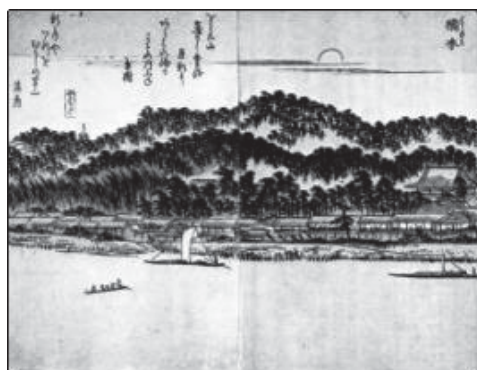
す。將軍家茂が供奉することになっていました。が、風邪を理由に辞退。名代として参列することになった一橋慶喜も八幡まで来たものの、攘夷祈願の儀式には加わらず、腹痛を理由に山下の寺院にとどまり、神前において攘夷を約束させられることを避けたのでした。

『淀川兩岸一覽』に描かれる男山

「淀川兩岸一覽」は、文久年間に出版された名所案内記ですが、淀川沿岸の風情が伝えられています。

男山と橋本の町並みも描かれていますが、そこに、其角の句が添えられています。

新月や ひとつ昔の男山



八幡に 活きる

ユース食堂を始めて

十余年

井村 貴枝子

1948年(昭和23)に富山県の滑川市に4人兄妹の二女として生まれました。子どもの頃から料理が好きで、栄養士にあこがれていました。富山の女子短大附属高校に通っている時、担任から東京の大学を勧められ卒業後、上京。大学では食物学を専攻しました。

3年生の頃、ユースホステルに泊まりながら北海道をめぐる計画を立てました。友人と一緒に行く予定でしたが、友人の祖父が亡くなられ、一人旅を敢行。2週間ほどで釧路



網走、旭川、礼文などを巡りました。ユースホステルはドイツで創設された、青少年少女の旅に安全かつ安価な宿泊場所を提供するもので、集団生活を通して、郷土愛や祖国愛を育成しようとする主旨で始まったものです。一方で、起床・就寝時間が決められる等、制約が多いためか、今は若い人たちに嫌われる傾向にあります。

そのうち、ユースホステルに勤め、ペアレント(管理者)として働くことを目指しました。

大学を卒業して、まず石川県の金沢ユースホステルに就職しました。食事の準備、後片付けだけでなく、寝具の管理、清掃など仕事量が多く、大変でした。その後、岩手の陸前高田ユースホステルに転勤になりましたが、宿泊者の少ない冬は奈良ユースホステルに出張しました。

私が24歳頃に、父が肺がんと診断され、今後もユースホステルでの仕事を続けるか悩みましたが、同僚や先輩たちのような情熱がない自分には、退職して帰郷することになりました。富山での生活はとても単調でした。栄養士の資格を活かした仕事がないか県庁の栄養士さんに相談に行ったところ、その方の斡旋で富

士銀行の社員食堂で半年、栄養指導の仕事させてもらいました。

1974年(昭和49)に金沢ユースホステルで知り合った人と結婚し、夫の故郷の八幡で暮らすようになります。その頃の八幡町は古い町並みもありましたが、田圃も多く、夜になれば寂しいぐらいでした。

夫の両親と最初から同居で、子どもも義母が見てくれ時間がありました。八幡に住み4年後頃、夫の妹が京都市で栄養士の自主勉強会があることを聞いてきて、私も参加することになりました。

やがて、京都調理師専門学校の非常勤講師に採用されます。ホテルのコックさん、料亭の板前さんなど料理人を目指す若者に調理科学を教えるというものでしたが、授業中に口紅を塗る女子や、立ち歩くやんちゃな男子がいたりして、慣れていない私には大変でした。

その後1年間、京都府立大学で調理学と保健学を聴講し、次の年から調理学研究室の非常勤助手として調理学実習や給食管理実習などを手伝わせてもらいました。20年弱続き、その後12年間は、非常勤講師として調理学実習と給食経営管理実習を担当させてもらいました。その傍ら、

他の栄養士・管理栄養士養成の短大・大学で調理学実習等を担当させてもらいました。

十数年前前に同居の義母が突然亡くなり、喪失感から精神的な不安感に苛まれるようになりました。そんななか、知人たちと昼食をとるようになり、それがきっかけで、自宅で昼食を提供することを思いました。以来十数年、今は月2回の食事を実施しています。その名も「ユース食堂」。

年配者を中心に、毎回15人から20人程が、狭いながらも食卓を囲みます。食事を通して会話がはずみ、食後、詩吟や謡曲、笛を楽器に皆さんの歌声がはびこることもあります。皆さんの笑顔が嬉しいです。この10月まで、延べ5000名の方が参加されたことになりました。

他にも時々、市の健康推進課の講座の手伝いや、公民館の料理教室を担当させてもらっています。

周囲の方々のご協力で楽しい日々を過ごしています。

※「ユース食堂」に参加なさりたい方はご連絡ください。

TEL 075・981・3050

太陽光発電を考える

高畠 美代子

エネルギー問題から

利権問題への流れ

太陽光発電は、ご存じの通り太陽エネルギーの利用方法です。太陽電池を使って太陽光を電力に変換する発電方式。化石燃料の供給や有毒ガス排出の心配がなく、放射性廃棄物の処理問題もありません。仮にゴビ砂漠に太陽電池を敷き詰めれば全人類のエネルギー需要量に匹敵する発電量が得られるといわれています。

「地球のことを真剣に考える知的で心優しい家族が、同時に家庭のエネルギーコストを削減できる方法」

だいたいこんなイメージでしょうか。

日本ではソーラー業者と電力会社のタイアップにより「エコ家族」が大々的に広がり、主に個人住宅で普及していきました。2008年以降は助成金で国も普及活動に積極的参入し、更に2012年からは余剰電力買取制度が強力な後押しをしました。

良いことばかりの太陽光発電ですが、余剰電力買取制度（FIT制度）は今後廃止の見通しです。

余剰エネルギーとして買い取ったエネルギーはどこにどのくらい有るのか不明瞭、また買取資金はどこから捻出しているのか、これらはつきりしません。一般家庭の電気代に上乘せになっているのではないかと言われています。

つまりは、助成金や買取といったエサで国民が高価なソーラーシステムを購入し、業者と電力会社が儲かるシステムに国が加担している構図と言われています。

この構図は何も太陽光発電だけではなくありません。分野は違いますが、まず高額な介護保険料を払うことからスタートした介護関連事業もそうです。利権という悪意ある言い方ですが、国も経済状況を少しでも改善させなくてはいけないのですから、進め方としてまず消費者の購買を奨励するわけです。

資産形成、土地活用

飛行機で北海道に向かっていると、信州や東北の深い山々の一部にソーラーパネルが光っているのに気づくときがあります。トラックが通るよ

うな道はあったのかどうか、設置は大変だったろうと思います。

八幡市には、信州や東北のように市民の生活にほど遠い山奥はありません。そして市政に関しては他に優先順位の高い様々な問題があります。男山の太陽光発電建設問題は、使にくい土地の活用方法として太陽光発電を思いついた個人か業者の資産形成が目的であり、そこに利権が乗っかるうという形と思われます。

個人が私有地を活用すること自体は当たり前で、地主さんにおかれましては気の毒な気もします。しかしながら一方で、場所は八幡市の顔である男山であることもきつと自覚しておられることでしょう。

数年前からの天候不順による崖崩れなどで、市民は男山の地盤の緩みを心配しています。ハザードマップで確認したところ、大規模な崖崩れは十分想定内となっています。

実は太陽光発電の特徴として、規模が大きいからといってエネルギーを多く生み出せるわけではなく、発電効率自体は変わりません。ただ広く設置したほうがコストは安くなるため、できるだけ広い範囲のパネルングを計画されたものと推測しています。

環境問題

信州の山奥であればそんな心配は必要ないですが、時々パネルの反射で被害が及ぶこともあるそうです。それに関しては地主さんもしくは業者が即対処されて心配は無用かもしれません。

しかし多くの地表をパネルで覆うことは、男山の数少ない貴重な生き物には計り知れないダメージがあると思われます。そして生き物たちは住民のように、反射でまぶしいとか地表が熱くて死にそうだ、とは訴えることができません。

前回少し言及させていただきましたが、いま八幡市に一番必要なのは人口流失を防ぐことです。国の年金制度や健康保険制度と同じで国民が潤うには働ける人口確保が大前提であるように、八幡市に人が流れて来るためには、私たちが意識的に八幡市の魅力を守る必要があります。

石清水八幡宮が鎮座する男山の景観を、これから後の人々で大切にしましょう。

特別寄稿

介護の今

林正廣

今年の5月下旬、八幡市社会福祉協議会（以下「八幡市社協」）所属のケアマネージャー（以下「ケアマネ」）が、利用者116人の印鑑を無断で作り、本人や家族の許可なく押印して介護計画書を作成していたと報道された。

私は、京都市で男性介護者支援をしているが、東高野街道に魅入られて度々（八幡を）訪れるので、過日、八幡市社協を訪ねた。会長は温厚実直な人で、アポなしの私にいていねいに説明をされた。

○ケアマネは5人。内4人が関係者で、印鑑は百円ショップにて自費で購入した。

○報道で、印鑑は145本とあるが、144本。重複を省くと138人分。24人分は利用者の許可があり、無断作成は114本。

○第三者の告発で判明したが、介護計画書に基づいてサービスをを行うので、何人かの職員は気づいていた。10年間続いていた。

介護に関しては「なぜ？」が多い。施設職員の入所者殺害、介護事件、「な

ぜ」が続く。

例えば、ショートステイでの会費の過徴集の問題。入所日は午後入所のため夕食のみ。退所日は午前退所のため朝食のみ。にも拘らず両日とも厚労省基準の1日分1380円が徴集され、1900円の過払いが7年間も続いた。

○食費過払いの例 △3泊4日の場合▽

	朝食	昼食	夕食
国の基準	360円	520円	500円
入所日	食べない	食べない	○
二日目	○	○	○
三日目	○	○	○
退所日	○	食べない	食べない

※食べない4食で計1900円の過払い。月2回利用すると7年間で31万9200円の過払い

京都市介護保険課長の言、「厚労省通知に『食費は一食ごとに分けて設定することが望ましい』とあるため、事業者に強制できぬ。」（望ましい、それは将来の理想だと言う）ショートステイ事業者の言、「なんなら重要事項説明書に『夕食のみ、朝食のみの提供で一日分の請求』と書きますよ」（実に強き）。

この「望ましい」という官僚用語の削除に1年もかかった。消費者契約法第10条（消費者の利益を一方的

に害する契約は無効）を持ち出すと、厚労省はあっさり削除した。

しかし、通知では、法的拘束力はなく、京都市でも100%是正に10カ月、全国の自治体に広げるのにメディアの力を借りて3年かかった。

次に、有料高齢者施設の問題。サービス付高齢者住宅（以下「サ高住」）が増えている。入居すれば、自己の介護度の上限までサービスを受けさせられる。要介護1なら一律に1カ月1万6710円（1割負担額）、同5なら2万5018円。必要なサービスは別々なのに。

理由は簡単。そのサービスを自施設お抱えのケアマネやヘルパーに担わせ、事業者として収益を上げるためである（囲い込み）。これも特定介護指定施設として国が認めている。

サ高住は文字通り住宅であり、管轄も厚労省ではなく国交省である。入居者が入居以前に慣れ親しんでいたケアマネやヘルパーが、サ高住を訪れてケアするのが本来である。

八幡市の印鑑不正、ショートステイ食費の過徴集、サ高住の囲い込み、介護者支援の立場から現場に入ると、関係者は異口同音に「事務の煩雑さを避けるためだ」と言う。手持ちの

印鑑を押し、全日3食を食べたとし、一律にサービスを上限までにすれば確かに事務は簡素になるだろう。

それを聞くと、私は「障碍者、高齢者のケアは煩雑なのが当たり前嫌ならやめたら」と下品にも大声になつてしまう。気づいた者が声を上げなければならない。

ケアマネは、介護者支援専門員、「自己決定」と「自立支援」という介護保険の理念に立つ専門職である。しかし、事業者に雇われているため、事務を急いで印鑑を作り、入所者の自立を妨げる過大なサービスを組む。独立性のある開業ケアマネが望まれる所以である。

介護保険も20年。国は自助心豊かな国民性ゆえ、利用は少ないと甘くみて、性善説に基づいて制度を作った。介護税というべき保険料を財源としながら、運用は性善説では行けぬ民間。入所者が殺されても、国家賠償は不要。

つい先日にも官邸主導で介護予防に数値目標を出したが、与党内の批判で引つ込めた。頼みは外国人人材。さまざま制度の中、私は介護をする人への公的支援がある英国に学びつつ、介護者支援の中でその声を聞いている。

宗教と社会

6

浄泉寺住職 大原光夫

今回は「小ジハード」についてお話いたします。まず、大雑把に理解するために、少し乱暴な表現をします。

大ジハードは、人間の内面（人格・人間性）の醜さを克服する戦いであることに對して、小ジハードは財産・物・家族など物理的なものを守る戦いを指します。

別な言い方をしますと、私の今の幸せを壊すものとの戦いです。ですから、家族や財産を守る戦いを、小ジハードとしています。

当初は、異教徒の戦いが本来であったのですが、大ジハードとの関係で、イスラム教徒自身の態度に軸足が置かれるようになりました。

日本の仏教でも、同じような傾向があります。特に、私の宗派である浄土真宗では「現生利益^{げんせいりやく}」という言い方があります。これが、小ジハードに該当すると考えられます。無病息災・商売繁盛・安産・合格・ガン封じ・ぼっくり寺（長煩いしたくない）など祈願することを現生利益と言って

います。

つまり、私の人生でより幸せを壊さないことを願う求めることを指します。仏教の「悟り」と「大ジハード」、「現生利益」と「小ジハード」とこのように対比していることに気がつきます。

「ラマダン」に見える仏教の「八斎戒」も類似していることをお話しました。今回のシリーズ（イスラム教）の冒頭で、世界の三大宗教、仏教・キリスト教・イスラム教、この中で現在「最も勢いよく勢力を伸ばしている宗教はイスラム教です」と紹介しました。神戸のモスクの坊さんに、「何故、イスラム教が勢力を伸ばしているのか。どう考えますか？」と聞きますと、彼は確信をもって「コーランが正しいから」と即答しました。

真面目に暮らす人々に受け入れられる宗教、つまり真つ当な宗教での「教え」は共通する部分が多いと思います。

この度、イスラム教をとりあげた理由は、日本のイスラム報道の歪みと、長年にわたるイスラム教への理解不足・説明不足の結果、「イスラム教なんてロクでもない宗教や。宗教が戦争？ とんでもないことや」と

多くの人々が口をそろえて否定する宗教になってしまっていることを正したいと思ったからです。

一方、世界で最も勢力を伸ばしている宗教がイスラム教ですので、日本人の認識と世界の宗教事情との落差が余りにも大きすぎます。この透き間を今回の話で少しでも埋めることができれば有難いことだと思えます。

本来の宗教の姿を冷静に見て、それぞれの方が自由に評価する参考になることを願うものです。

今回はIS（イスラム・ステイツ）についてお話を進めるのですが、大変デリケートな要素を含んでいます。「聞きかじり」や自分勝手な印象のままお話を進めますと、異論や間違いを伝えることになってしまいます。

例えば、「中東・「中近東」とはど

こを、そしてどの国を指しますか？と聞かれて即答できる人は少ないと思います。また、アジア諸国で最も西に位置する国はトルコなのですが、「トルコはヨーロッパじゃないの？」と感じる（考える）方も少なくありません。このように、曖昧な認識のうえで構築される説明は、さらに誤解を広げる結果となります。今回は、これらの点に注意を払いながらお話を進めます。



創作彫刻

― 仏教の教えを彫刻に

加藤 錠治

5

入麁垂手



禅の語録に梁山廓庵和尚の「十牛図」がある。この中の第十図は入麁垂手と題されて老人が描かれている。これは禅の修行が完成した人の生き様を描いたもので、老人が瓢を提げて街へ出かけ、杖について隠れ家に帰る姿である。

「麁」とは街のこと、「垂手」とは手をさしのべて衆生に尽くすこと、即ち煩雑な人間社会に入って人々を救う教えである。老人はやせ衰えた胸をあらわにし、ぶらりと手をたれてとぼとぼと街に出かける。

馬面で自己を表に出さず風格もかくし、街では人々の中にいても何もしないが、人々を感化して成仏させる。衆生救済という人為・善意の先にあるもの、それは「真つ直ぐな釣

り針で魚を釣る」に等しい最高の教化の仕方であるといわれている。

老人は市井の隠者であり、こんな姿を彫った作品である。

巳の中の仏



仏教では、一切衆生悉有仏性といつて、この世の全ての生き物には仏が宿っていると教えている。姿、形から嫌われやすい爬虫類にも仏は宿っている。

水の中に沈んだ瓶の中から鎌首をもちあげた蛇の口の中に釈迦如来座像を入れて、これを表現してみた。恐ろしい蛇の中にも優しさが宿ることを現した。瓶の中の水を菩薩の慈悲にたとえ、瓶から溢れた水が壁をつたって流れ、それが波紋になって広がって行く様子を表現した作品である。

観音猿鶴



観音菩薩が母性の象徴であるとするれば、「観音猿鶴」は母子の情を表現するには最適な題材である。13世紀後半の水墨画家で、日本で高く評価されている牧谿の観音猿鶴図(国宝・大徳寺蔵)を参考に製作したものである。

観音の徳は慈悲であり、悲は母の慈しみ、すなわち子供に対する母親の愛がテーマと言われている。これが悲母観音あるいは慈母観音とも言われる由縁である。白衣観音は女性的で優美な姿であり、安産や子育ての観音としても知られているので、観音には白衣観音を選んだ。子を求めて鳴く母鶴と、小猿を抱いた母猿を古木にあしらった作品である。

剣と華

社会には裏と表があつて、人生は山あり谷ありである。良寛は「裏を見

せ表を見せて散る紅葉」と詠んでいる。表裏の究極は生と死であり、これに着目して彫った作品である。

「剣と華」は貧困と富裕、戦争と平和等に通じる「裏と表」の関係にある。鬼の持つ剣と観音菩薩の華を、五百円硬貨の表裏を利用してレリーフした。表は菩薩の慈悲に富んだ平和の祈り、間違つても裏の鬼の剣が活躍する戦争にならないことを願っている。

コインは“Coin Toss”に用いられる様に、表裏を選択するのに使われる代表的なものである。

表



裏



八幡の芸能

4

不満足感が肥やし

猪飼康夫

能楽は、歌舞伎のように同じ出しものを連日続けて公演されることはなく、その日にただ一度だけ演じられます。同じ曲が、同じ配役により、同じ舞台で演じられることは滅多にありません。演能は、まさに一期一会です。それだけに玄人といえども出演時の緊張は相当大きなものだと思います。

素人にとっては、能楽はおろか身近な仕舞ですら、出演時の緊張は大変なものです。舞囃子ともなれば、なおさらのことです。

緊張が最も高まるのは、切り戸口の後ろで次の出番を待っている時です。シテの謡い出しのところを呪文のように小声で繰り返す人、黙り込んでしまう人、また逆にお稽古不足の言い訳をくどくどする人など、緊張を和らげる方法は人それぞれです。観客は、出演者が意識するほど熱心に見ているとは限りません。しかし、何かやり損なうと、観客の注目を大

いに引く結果となってしまうものです。

舞台での失敗は沢山ありますが、最も印象に残っているのは、学生時代に京都観世会館で初めて舞囃子「敦盛」を舞った時のことです。シテ謡を1カ所間違ってしまったことの後悔にはじまり、なんとも言えない不安感に襲われ、中之舞ちのまいの中ほどで一時遭難してしまったのです。笛の音が聞き分けられなくなると、まるで山中で濃霧に道を阻まれたように恐ろしくなるものです。クラブ活動の最後を飾りたいと思ってお稽古を重ねてきたのに、これは夢であつてほしいと願いながら舞っていました。



しかし、過ぎ去ったことは切り捨て、この後をしつかり舞おうと決心したとたんに目の前の霧がすっかり消え去り、後半からは思うように舞うことができました。舞台から戻って、まだ興奮が醒めやらぬとき、林保三先生が次のようにおっしゃいました。

「本番は稽古の気持ちで、稽古は本番の気持ちでおやりやす」

それから五十数年、この教えを守ってきましたおかげで、大きな失敗はなくなりました。しかし、不具合や不満足感出演のたびにいろいろと出てきます。そして、次の舞台ではこここのところを気をつけようと思ってお稽古を続けてきました。

失敗には、お稽古不足とか、力みとか、気抜けとか、何か失敗を誘発させる要因があるようで、なんの失敗もない方がむしろ偶然ではなかなと思います。大きな失敗がかさなりますと、お稽古を続けていくのがいやになってしましますが、逆にいつも旨くいっていますと侮りの気持ちが出てきて、お稽古が疎かになってしまふ恐れがあります。

出演後に不満足感が残り、次回の舞台でこの不満足感を無くしたいと願っているのが良いようで、まさに

「不満足感が肥やし」になると思います。

加齢と共に激しい動きのある仕舞は舞えなくなりましたが、年齢に見合った静かで味わい深い仕舞をいつまでも舞い続けたいと願っております。



→舞囃子「船弁慶」
※舞囃子は、仕舞と同様、お能の一部分を紋付・袴・白足袋にて舞います。仕舞との違いは、お囃子が入っているところです。

八幡俳句歳時記 5

俳句はすきに

読んでいいのです

― 参考としての自句自解(2) ―

小笠原信

こんにちは。甘い誘惑に乗り、前号で俳句の理解の一つとして「自句自解」をさせて頂きました。もう1回だけしますが、あくまでも一つの解釈の提示であり、『ご参考までに』というスタンスです。

その母も抱きし幼なも絵踏みかな

この句の景(場面、景色)は、ご存知のように、キリスト教が禁教であった徳川時代の絵踏みです。キリストの十字架像や聖母マリア像を足裏で踏ませました。各地の奉行所は、田植えの前の春先に行ったようです。従って、季語は春です。踏絵の現物は手に取ったことがあります。

もし踏まなければ、〈転び(転向・改宗)〉を強要され、転ばなければ苛烈な拷問、さらに死刑。九州の長崎や島原ではたくさんの「殉教者」を

出しました。小説(遠藤周作の『沈黙』)や、同名の圧倒的な映画があります。

作者のぼくは、江戸時代にタイムスリップし、〈絵踏み〉が行われている場にいます。自分が信者であったら、どうするか? ぼくは小心な人間だし、痛いことに弱いので、すぐに棄教するのではないだろうかと自問自答します。

「その母」はマリアを想定しています。「抱きし幼な」は、幼児のキリストです。この聖母子は、「私達も〈絵踏み〉をします。信者のあなた方も残酷な責め苦に耐えずに、〈絵踏み〉をして命を永らえて下さい」と伝えているのです。いささか理屈的ですが、これが作者としての「句意」(意味・意図)です。冒頭句は、5年前の作ですが、今年は「マリアの死 だれも知らざる 絵踏みかな」という句を作りました。

俳句は、自分の事として詠むのであれば、結社、グループにもよりませんが、基本的に、どんな題材、場面、時代を扱っても可です。現実・事実であっても、イメージ・想像であってもオケー。かの芭蕉さんは、俳句の自由(俳諧自由)や革新性(新しみ)を弟子たちにも強く求めていました。

永遠の 眠りのけいこ、日向ぼこ

わかりやすい(日向ぼこ)の景です。もちろん季節は冬。目の前で、老人ホーム入所の老人たちが数人日向ぼこ。ぼくの介護度4の母もショートステイで来園し、その端に並んで穏やかな日差しを浴びながらウトウトしています。前句と違い、幸せな光景。しかし、次の瞬間「ああ、理想的な死(往生)の練習をしているんだ!」と見たのです。94歳の母は一日のほとんどはベッドでウツラウツラです。静かな往生は十人に一人と言われています。さあ、母に稽古の成果が出るでしょうか。

なお、同じ季語の拙句に「日向ぼこ 徳の少なき 者ぬける」があります。徳の少なき者とはぼく自身のことです。ちよつと「川柳」っぽい句ですね。余談ですが、川柳も好きで新聞の川柳欄、とりわけ毎日新聞の「仲畑流万能川柳」も楽しんでます。

噴水の 頂点あたり 反古反古と

景は噴水のそばですね。季語は「噴水」で当然。夏。単純な「一句一章(一物仕立て)」の句で、素直な写真・写生の句です。大きな、高さのある噴水ではありません。その吹き上げの一番上(頂点)が、落下に変わろうと

ホゴホゴとしています。句の工夫は、ホゴホゴという水流の擬態語と、反古・反故(いらなくなった紙)を掛けたところでしょうか。恥ずかしいほどの小さな工夫ですね。翻って、尊敬する芭蕉さんは「文台引下ろせば即ち反古なり」(『三冊子』)と厳しく言って、常の精進を説いています。

因みに、ぼくの先生の句に「軽き死もあるか 噴水はさらに脱ぐ」(竹中宏)という素晴らしい句があります。「噴水」の名句と言えはこの句が一番と思います。上半分の「か」は反語の「か」です。つまり、「軽い死はない。人間の全ての死は重いものだ」と訴えています。噴水の頂上部の「さらに脱ぐ」の把握・表現は見事です。頂点での水の動きに、生と死の繰返しを見る! ここにこの世の本質が見抜かれています。この句に衝撃を受けて入門を決めました。但し、先生は単純な一義的解釈ではなく、重層的・多義的な読解を要請されます。皆さんも様々に読んで、ご感想をお聞かせ下さい。

なお、ぼくの噴水の句は、先生の噴水の句に負けないような句を作つてやろうと、樟葉駅前の噴水を見て作った句です。明らかに格が違いますね。脱帽です。

男山地域再生の取り組み

— だんだんテラスと歩んだ

五年間の実践—

辻村 修太郎

9月10日(火)、

八幡市市民共同
活動センターに
おいて、第9回



八幡市民文化サロンが開催されました。テーマは、右記の通りです。講師の辻村さんは、当年30歳。関西大学環境都市工学部建築学科を卒業後、同大学院を修了。2012年より「関西大学戦略的研究基盤団地再編プロジェクト」に所属し、UR男山団地のコミュニティ拠点『だんだんテラス』の開設と運営に携わってきました。

2013年10月、八幡市とUR都市機構(独立行政法人都市再生機構)、関西大学の三者が、京都府知事立ち会いのもと「男山地域まちづくり連携協定」が締結され、それをもとに、地域再生の実践が展開されてきました。活動の中心は、男山団地中央センター地区の空き店舗を活用した『だんだんテラス』です。

実践の報告に入る前に、辻村さん自身が、学生や院生時代に、建築デザインを専攻し、そのなかで集落や

住宅地が、どのような環境や生活基盤、共同体によって成立するのかを学ぶために、イタリアやドイツの都市を視察し、和歌山や三重などの村落を訪れたとのことをお話しました。それらの学びを通して、人々の暮らしとそれを支える共同体が景観といかに機能しているかが、都市を活性化させるポイントになることを認識したとのことでした。

1970年代、高度成長期とともに、日本では全国的にニュータウンや団地が建設されました。それから半世紀。ひと気の無い団地は荒廃し、犯罪多発を課題とする所も生まれてきました。

関西圏では、千里や堺・泉北のニュータウンが知られますが、居住面積を確保したり住環境を整備したりしてそれぞれ「再生」が図られています。

八幡市男山地域は、UR都市機構が管理する賃貸集合住宅(UR男山団地)、京都府及び八幡市が管理する賃貸集合住宅、日本住宅公団(現UR都市機構)及び京都府住宅供給公社が建設、分譲した分譲集合住宅とその周辺に位置する分譲宅地を含め、八幡市全体の人口の約3分の1を占めています。男山団地は、中層五階



↑団地内の緑道

建階段室型の住棟が南北2kmにわたって100棟以上建ち並ぶ大規模な集合住宅団地で、全国で9番目、近畿では3番目の規模を誇ります。

また、八幡市と枚方市の府境にあつて、京都や大阪には通勤圏であり、団地内には緑道が伸び、住環境的には恵まれた景観を維持しています。

建物自体も、工法がしっかりとおり、社会資源の活用をさらに進めれば、世界的にも評価される団地になり得ると思っています。

再生の具体策の一つは、リノベーション(機能・価値の再生のための改修、その家での暮らし全体に対処した包括的な改修)です。関西大学の建築科の学生のアイデアを生かして、若い人たちが住みたくなるような居住空間を創ることに努めました。具体策の二つ目は、だんだんテラスの活用です。

中央センターの空き店舗の一角を改修し、誰もが気軽に集まる空間を確保しました。まず、子どもが集まるようになりましたが、今では毎日午前10時にラジオ体操を行い、週2回、地元の農家と提携して朝市を行っています。そんななか俳句の会が生まれ、健康麻雀など趣味の会ができました。

また、地域に住む保育士グループとの協働による子育て支援施設「おひさまテラス」の運営が2014年から始まり、翌年、テーマ型の地域活動プラットフォーム「男山やってみよう会議」が開設され、2016年には、居住者負担による住戸改修促進特区「ココロミタウン」の指定等の住民活動の支援を行うようになりました。

まさにソフト・ハード両面の取り組みが同時多発的かつ玉突き的に展開するようになったのです。へ



↑だんだんテラス

✓ 四者による協定締結以後の動向としてUR都市機構からは、平均世帯主年齢の若年化（全国平均が47・9歳に対し男山団地では44・8歳）、空き住戸率では、6年前の9%に対し5%になるなど改善されているとの報告がなされています。若い世代にとって魅力的な環境だということだと思います。

今後さらにも継続した取り組みが期待されていると思います。

その後、質疑応答となり、男山団地が若い人たちにとって魅力的な理由が問われ、辻村さん以外の参加者も交え、これまで述べてきたこと以外に、次の点が指摘されました。

家賃が安い。若い層が樟葉駅周辺の商業施設でショッピングを楽しむのと同様に、高齢者にとっても、八幡の古い歴史を味わうことができる環境にある。参加者20名。

【文責＝土井三郎】

編集後記

今回、初めて「特集」を組んでみました。テーマは、渦中の「男山太陽光発電建設問題」です。同「反対実行委員会」のみなさんにも協力してもらって、8月31日に橋本公民館で行われた住民集会に特別講演をされた西中道彌宜の「石清水八幡宮の歴史と男山」の概略をトップに掲載しました。

そのなかで語られた「自然全体の共生と循環の中で人が生かされている」という言葉は、地球環境を取り巻く現状を考えたとき噛みしめたい言葉です。

また、佐藤長作さんに、「男山の自然と昆虫」を寄稿して頂きましたが、男山の環境にあつてハイイロチョッキリという昆虫が卵から成虫へのサイクルを紡いでいる事実の重みを考えさせて頂きました。

9月20日、国連総会に合わせて米ニューヨークで「気候行動サミット」

が開催されるのを前に、積極的な地球温暖化対策を求める若者たちの抗議行動が世界各地で一斉に開かれしました。主催団体によると、163カ国で400万人以上が参加したとのことでした。

異常気象に翻弄され続ける世界にあつて、各国の政府だけに任せられないと、若者たちが立ち上がったことに希望を持ちたいと思います。

若者の活動と言えば、第9回八幡市民文化サロンに「男山の再生」と題して辻村修太郎さんにお話してもらいました。

八幡市とUR都市機構、関西大学の三者が、京都府知事肝いりのもと締結された「男山地域まちづくり連携協定」を基盤に、関西大学の建築科の若者が男山の団地に居住しながら取り組んだ実践は、男山の団地の活性化のみならず、町づくりの在り方を示すものでした。

辻村さんのお話から、「まちづくり」のポイントは、地域の人々の暮

らしとそれをもとにした共同体が周囲の環境といかに有機的につながるにかかっているということです。

いま、橋本駅前の再開発が進められようとしています。男山の再生から学ぶことが大きいようです。

■ 次回の八幡市民文化サロン（第10回）は、左の通りです。

「郷土の川、木津川を知ろう」

― 河川レンジャー活動を通して

学んだこと

福井波恵さん・山田信人さん

11月12日（火）午前10時～12時

八幡市市民協働活動センター

みなさん方多数のご来場をお待ちします。

― 「きずな」編集委員会 ―

◆ 協賛金のご協力をお願いします ◆

（郵）00940・8・196292

NPO法人22世紀八幡ルネッサンス協会

（銀）京都銀行男山支店

普通預金 4165224

NPO法人22世紀八幡ルネッサンス協会